

間もなく開幕、ツーリズムEXPOジャパン 2020年に向けて観光産業の役割を内外に発信

公益社団法人日本観光振興協会（日観振）とJATAは9月24日から27日までの4日間にわたり、昨年
に続いて今年で2回目となる世界最大級の旅の祭典「ツーリズムEXPOジャパン2015」を東京・有明
の東京ビッグサイトで開催します。「新しい旅が始まる。」を掲げた昨年の「ホップ」から「ステップ」へと
位置付ける今年には「動く。感じる。旅になる。」をテーマに、2020年に向けて観光産業の果たす重要な
役割を国内外に発信する場として飛躍を目指します。

中央アジア5カ国の ブースを特集展開

日本全国と世界各国・地域から
観光情報が集結する展示会では、
国内の自治体や観光関連団体・
事業者と海外の観光局や航空会
社・ホテルといったサプライヤー
など合わせて1100以上の出
展者が、様々な趣向を凝らした
1500を超えるブースで独自の
情報提供やパフォーマンス展開な
どを繰り広げます。



また、ウズベキスタ
ンからは1992年
に設立された国営企
業であるウズベク
ツーリズムが参加
し、同国の観光開発
計画などに基づく日
本からの旅行者誘致
に向けた取り組みな

海外の展示では、カザフスタ

ン・キルギス・ウズベキスタン・
トルクメニスタン・タジキスタン

の中央アジア5カ国のブースを特
集展開し、旅行商品造成に必要な
情報を入手したり、現地関係者な
どとのネットワーキングを行うこ
とができます。

カザフスタンからは、同国の産
業開発やイノベーションなどを担
う投資・開発省が参加し、同省観
光部の担当者が現地の観光事情に
ついて詳しく説明する予定です。

中国・韓国も反転上 昇へ一気に加速

また、今年4月に日中韓観光大
臣会合が東京で開催され、二国間
での民間交流拡大に向けた取り組
みなども進められたことで、改め

どを紹介することになります。



“JAPAN NIGHT”を 丸の内エリアで開催

今年の“JAPAN NIGHT”は、2020年に開催され
る東京オリンピック・パラリンピックも見据え、国家戦
略特区でもある千代田区の都市空間を活用した「都
市型MICE」を具現化し、国際都市「東京」を舞台に魅
力ある日本の地域コンテンツを発信します。

具体的には、丸の内エリアにある「行幸通りと丸の
内仲通りの公共都市空間」と「JPタワー」で“JAPAN
NIGHT”を開催。「行幸通り」は、参加者を迎え入れる
ウエルカムプラザ、「丸の内仲通り」は、趣向を凝らした
体験ができるエクスペリエンスアベニューと位置づ
け、伝統的な祭りやクールJapanなど日本の文化・技
術・デザイン力を体感できる空間として演出を工夫。
産業の国際競争力を強化して国際的な活動拠点の形
成を促進する観点から定められた国家戦略特区を活
用することで、これまでの増上寺や国立博物館などユ
ニークアベニューでの交流会から、「ユニークエクスペ
リエンス」を通じて五感に訴えるイベントを目指すこ
とになります。

て、重要なデスティネーションと
して注目される中国と韓国が、そ
れぞれ、20ブースと50ブースの出
展による増床展開を実現していま
す。日本から韓国へは、JATA
が昨年12月に1000人規模のメ
ガファムツアーを実施して、韓国

大会堂で開催された日中友好交流
大会に参加し、日中間の観光交流
拡大に向けて大きな成果を収めた
ことは記憶に新しいところです。
今回の「ツーリズムEXPOジャ
パン2015」では、日本の海外
旅行市場にとっての重要デステイ
ネーションである中国と韓国への
訪日旅行者増加に向けて、一気に
流れが加速されることが期待され
ています。

の地方における観光資源や観光素
材を掘り起こし、ソウルだけにと
どまらない各地への新たなツアー
商品を開発。中国へは、今年5月
に3000人を超える日中観光文
化交流団が訪中して、北京の人民
（5ブース）、アゼルバイジャン
（5ブース）、モルドバ（1ブー
ス）、ルクセンブルク（1ブー
ス）、タヒチ（1ブース）がある

「美しい村」で写真展とセミナー

ほか、ブランドUSAが海外からの出展としては最大規模となる60ブースを展開し、デステイネーションとしての米国を強力に訴求します。

さらに、今年6月に「美しい村30選」を発表したJATAのチームヨーロッパ観光促進協議会は、展示会場内に設営されるヨーロッパブースで「ヨーロッパの美しい村30選写真展」を開催すると同時に、「美しい村30選」を中心とした観光素材やインフラなどについて業界関係者と一般消費者向けセミナーを実施します。チームヨーロッパでは、このセミナーを通じて「美しい村30選」の認知度向上と魅力のPRを図る予定です。「美しい村30選」は、旅行会社の社員



谷間を囲むように牧草地が広がる典型的なチロルの町・レッチ (オーストリア)

約300人が、(1)デステイネーション開発の観点から、メディアへの露出度も低くこれまで商品化されていない、(2)旅行会社の視点から消費者にアピールできる魅力がある、などの基準で選定。既に、チームヨーロッパのメンバー旅行会社16社が、企画対象となる村を決定して下見を実施しており、「ツーリズムEXPOジャパン2015」での写真展やセミナーを通じて、旅行業界と消費者の双方に「美しい村30選」への理解を深めてもらい、2016年上期に商品を発表する予定です。

注目される国内出展の積極的な拡大

国内・訪日関連の展示では、単独及び広域プロモーションを含めて47都道府県の全てが出展。北海道新幹線の開業に向けたプロモーションをはじめ、日本各地の風土や文化の中で育まれた伝統的工芸品の実演・紹介などと観光を組み合わせて地域の活性化を目指す伝統的工芸品産業振興協会による展開や、訪日観光の活性化に向けてショッピングツーリズムの訴求・発信を図るジャパンショッピングツーリズム協会の主管によるインバウンド向けテーマ展示といった取り組みも注目されます。



フランスとドイツの文化の十字路口となったアルザスの村・リクヴィル (フランス)



ティムール朝で「青の都」と呼ばれ栄華を極めたサマルカンドのレギスタン広場 (ウズベキスタン)



中央アジアで最も昔の面影を残すと言われるヒワのイチャン・カラ (ウズベキスタン)



2003年に世界遺産登録された中央アジア最大の聖地であるホージャ・アフメッド・ヤサウイ廟 (カザフスタン)

「ツーリズムEXPOジャパン」営業・展示部会長を務める東日本旅客鉄道・鉄道事業本部営業部の高橋敦司担当部長は、「昨年の時点では様子見という観もあった国内の自治体や団体などが、海外サプライヤーの積極的なブース展開を目的にしたりして、出展空間を広域で使ったり、垂直のスペース活用を工夫するなど、これまでのパンフレット配布などから

「統合効果」が具体的な形となってきた今年の展示会に期待を示しています。

国内では、新規出展する岐阜県と愛知県が、それぞれ10ブースと6ブースの展開を行うほか、昨年は国内で最大規模の出展だった沖縄県が50ブースから60ブースに規模を拡大。富山県や奈良県、栃

観光産業の地位向上へ新たな顕彰事業

「ツーリズムEXPOジャパン2015」では、国内・海外・訪日旅行の各領域におよぶ観光分野における日本の代表的な権威ある賞として、観光顕彰事業「ジャパンツーリズムアワード」が創設されます。この顕彰事業では、国内・訪日領域・海外領域のほかに、国連世界観光機関(UNWTO)部門賞も設定され、国際的な機関との連携強化を通じたグローバルな展開を実現し、「ツーリズムEXPOジャパン」の国内外におけるブランド価値の向上を図ると同時に、顕彰事業全体を通じて観光産業の地位や価値の向上を目指していくこととなります。

木県、西武グループなどもブース展開を強化しており、注目されます。

新たな地域連携プログラムもスタート

今年から新たな地域連携プログラムとして、プレミアム・デステイネーション・パートナーの新協賛カテゴリーも設定されました。これは、海外・国内各地域のプロモーション施策などと連動し、「ツーリズムEXPOジャパン」事業とのパートナーシップの深耕を図るものです。

初回となる今年、来春に北海道新幹線開業を控え、夏にはデステイネーションキャンペーンも実施される青森県による協賛が決定しています。